

令和7年度(2025年) 追手門学院小学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『建学の礎として、人格形成を第一義としつつ、最先端の教育環境による「革新」をも備えたゆるぎない伝統校』

2 中期的目標

1. 次代が求める高水準の教育の展開
 - (1) 高い英語力を育成する学校
 - (2) ICT教育の実践強化
 - (3) 確かな学力を身に付けさせることができる学校
2. グローバル教育の推進
 - (1) 国際教育センターによるグローバル教育の推進
 - (2) 日本人としてのアイデンティティを持ち、正しい礼儀作法を身に付けさせる。
3. 「志の教育」の具現化
 - (1) 志を持ち、目標に向かうチャレンジ精神や忍耐力の育成
 - (2) 多様性を受容し、自分以外のものを大切にす心の育成

【保護者アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

保護者アンケートの結果と分析（令和7年11月実施） * そう思う：3、どちらかといえばそう思う：1、どちらかといえば そう思わない：-1、そう思わない：-3、わからない：0の加重平均	学校関係者評価委員会からの意見
<p>1. 全体的な満足度と傾向 満足度の維持：2025年度の満足度は、非常に高評価であった。前年度とほぼ同程度の高い水準を維持している。 過去最高評価：全25項目のうち、7項目において過去5年間で最も高い評価を獲得。 評価が向上した主な項目：「英語力指導（+0.15ポイント）」「道徳性指導（+0.13ポイント）」「事務室等対応（+0.11ポイント）」などで特に評価が上がった。</p> <p>2. 学校への総合満足度（入学推奨比率） 高い推奨意向：「本校への入学を親戚や友人に勧めるか」という問いに対し、94.1%の保護者が肯定派（はい、またはどちらかといえばはい）と回答。 推奨意向を左右する要因：入学を勧める比率と強い相関がある項目は、「やる気を引き出す努力」「友人関係」「愛校心指導」の3点であると分析。</p> <p>3. 学年別の傾向 低学年ほど高評価：特に1年生が21項目で全学年の中で最も高い評価を付けており、全項目で2.00ポイントを上回る極めて高い満足度を示している。 高学年の傾向：4年生以上、入学を勧める肯定回答比率が下がる傾向にあるが、前年度と比較してその下げ幅は改善されている。6年生においても17項目で2.00ポイントを超える高い満足度水準を維持している。</p> <p>4. 今後の課題と展望 さらなる満足度向上：総合満足度（入学推奨）に直結する「やる気を引き出す努力」「友人関係」「愛校心指導」の充実を図ることが、より良い学校運営に繋がる鍵であると分析。 推奨比率の維持：依然として90%超の高い水準にある。特に90.0%を下回った6年生への対応などが今後の注視点となるものと考え。</p>	<p>① 学校経営とブランド価値について 経営目標の継続：現在の経営目標に改善要望はなく、今の教育を継続・発展させてほしい。 追手門ブランドの維持：高い評価は「良い友人関係」や「愛校心」と相関しており、時代の変化に迎合しすぎず、伝統に基づくブランドの魅力を発揮し続けることが重要である。 日本文化とアイデンティティ：日本の文化や歴史を学び、国や郷土を愛する心を育てること、また自然や伝統の体験を通じて心を成長させることの重要ではないか。</p> <p>② 教育活動と教職員への評価に関して どの教員も学年・教科・校務分掌における部門目標を着実に遂行しており、「信頼できる教師集団」である。 情報モラル教育の継続的な実施により、児童の意識に変化が見られる。以前のような危うい使い方は影を潜め、今ではSNSのリスクを客観的に捉えた自律的な活用が可能となっている。 外国籍児童や家庭が増加傾向にある。寛容な心を育てるわが国の教育の必要性も感じる場所である。</p> <p>③ 卒業後のつながりについて 卒業後も校歌を口ずさむような強い愛着を持つ卒業生がいるのを見聞きしている。また、保護者同士の結びつきも非常に強い。 卒業生（山桜会）だけでなく、「OBではない保護者」も卒業後でも小学校と関わり続けられるような仕組みや組織を期待してやまない。</p>

3 本校の取り組み内容および自己評価

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 次代が求める高水準の教育	①高い英語力の育成	①児童の英語力に応じた効果的な授業を継続する。	①能力別授業の実施	①習熟度別授業の実施により、児童の能力に応じた指導が定着している。
	②児童の英語力の把握とカリキュラム作成	②外部のテストを受験させることで客観的な評価を行う。	②TOEFL Primary スコア分析年2回実施する。	②半年前の自分と比較した成長度合いが数値(スコア)として明確に現れている。
	③姉妹校とのコラボ授業	③姉妹校とのオンライン・対面交流を通じて、生きた英語を活用する機会を創出する。	③姉妹校と遠隔授業の継続的・発展的交渉会議を月1回開く。	③姉妹校交流も満足度が高く、国際感覚の醸成に寄与している。
	④ICTの活用と主体的・対話的で深い学び	④ICTを活用したPBL(課題解決型学習)の深化とともに、情報モラル教育を強化する。特に、低学年からの適切なSNS利用に関する指導を継続し、日常生活でのトラブルを未然に防ぐ力を養う。	④ICTを活用したPBLの研究会に参加年3回。	④AI教材の活用が定着し、着実な学習成果に結びついている。また、SNS利用を含む情報モラルについても正しく理解しており、「安心して見守れる」と保護者からも高い信頼を寄せられている。
	⑤個別最適化学習とAIアプリ	⑤ICT・AI教材を効果的に活用し、個別最適化学習を推進する。	⑤AI教材の検討会議年5回	⑤教員間で導入効果の検証と課題の洗い直しを継続的に行っている。
	⑥STEAM教育とプログラミング教育	⑥教科や探究の授業での指導を進める。	⑥STEAM教育の一環としてプログラミング学習の教員研修実施年3回	⑥次期学習指導要領の改訂を見据え、各教科の学びを深化させるプログラミング活用のあり方について、継続的な研究・検証を行っている。
2. グローバル教育の推進	①国際交流行事の充実	①海外姉妹校との相互訪問やオンライン授業を継続し、多様な文化への理解を深める。	①オーストラリアとハワイの相互訪問実現とオーストラリアとのオンライン上の授業の実施。	①多様な文化に触れる活動を通じ、国際教育に関する保護者の満足度は高い水準を維持している。体験を通じた自然の大きさや歴史・伝統の深さを知る活動は、人としての心の成長に寄与していると評価された。
	②国際教育センターによるグローバル教育の推進	②次世代を担う児童がグローバルに活躍するための基礎能力(グローバル・リテラシー)を自発的に習得することを目指す。	②第2回SUNプロジェクトの実施。	②国内外の多様な文化共生への理解をさらに深める取り組みが必要である。日常生活の中でミニ・グローバルを体験できる機会を設けていきたい。
	③宇宙未来プロジェクトの実施	③わが国の航空宇宙学・自然科学に関する情報や最先端科学技術に関するオンライン事前学習会の実施並びに講師を招いての出前授業の実施	③参加児童を対象に11月中旬から7回に渡り事前学習会を実施した。	③単なる見学活動に留まらないよう事前に講師との出会いを計画し目的意識や学習意欲を高める工夫を行った。
	④公開セミナー	④小学校における英語教育について知見のある研究者・実践家を招き保護者向けの講演会を開く。	④国際教育に関する公開セミナーの計画会議月1回	④講師候補者との予定が合わず令和7年度は見送りとなった。
	⑤日本人としてのアイデンティティの育成	⑤グローバル教育の土台として、日本の伝統・歴史・文化を深く学ぶ体験活動を重視し、国や郷土を愛する心を育てる寛容な心の育成を推進する。また、自然の中での実体験を通じ、人としての心の成長を促す。	⑤年3回のNIPPON再発見プロジェクトの実施	⑤金継ぎに関する講話と実習、京都文化博物館の建物の保存と修復活用についての講和、和菓子作り・茶道体験、水墨画実習体験・座禅体験を実施した。
	⑥正しい礼儀作法・敬愛の精神を育てる	⑥礼法の授業、学用品供養祭、校内座禅会の実施。	⑥1～4年生が学期に1回礼法の授業を受講する。	⑥学校全体として計12回の礼法に関する授業を行った。1年では保護者の参観に合わせて親子で学ぶ機会を提供することができた。

<p>3. 「志教育」の具現化</p>	<p>①キャリア教育の推進</p> <p>②人材の発掘</p> <p>③児童の意識調査</p> <p>④体験的行事を通じた礼儀礼節を学ぶ機会</p>	<p>①卒業生（山桜会）による講演会等を継続する。</p> <p>②卒業生（山桜会）との連携を強化し、在校生が誇りを持てるモデルケースを提示する。また、卒業生ではない保護者も、卒業後も本校と関わり続けられるようなコミュニティの在り方を望む声が上がった。</p> <p>③児童の夢や生活実態を把握し、一貫した教育方針に基づき、時代の変化に流されすぎない「追手門ブランド」の魅力を維持・発揮し続ける。</p> <p>④豊かな自然環境や宿泊行事での実体験を通じ、人として心を成長させる機会を継続・発展させる</p>	<p>①卒業生による講演会の実施</p> <p>②1月の成人の日同窓会を実施し、リストを作成する。</p> <p>③生活実態調査と児童の夢調査を年1回実施する。</p> <p>④礼儀礼節の指導を実施する。</p>	<p>①卒業生との連携は順調であり、在校生にとって将来のモデルケースとなっている。</p> <p>②毎年、卒業生の有志が発起人となり卒業当時の教員を尋ね手作りの同窓会を企画・実施することが卒業期生の中で確立している。</p> <p>③夢や志を持つことの大切さの呼びかけは、全校朝礼における学校長訓話や週番からの話、ホームルーム時の学級担任による訓話等で折に触れて設けている。</p> <p>④宿泊行事においても衣・食・住全般にわたって細やかな指導を学年で指導の観点を揃えて行っている。3～5年生の東鉢伏高原での宿泊、福井県大野市でのカントリースクール、NIPPON 再発見プロジェクトなどで自然体験ができる内容を取り入れている。</p>
---------------------	--	--	--	--